職 務 経 歴 書

20xx年xx月xx日現在

氏名　ゆとり　転職

職務要約

学生時代から、教育に関して深く興味を持っており、大学を卒業してから6年間、中学校で数学科の教諭として働いてきました。現在は、3年生の担任として、学級運営や教科指導、部活動指導などに携わり、生徒の学力向上や学習環境の改善などに貢献。数学科の主任として「ICT活用」の学校内への導入、ICTリーダーとして研修のとりまとめなども担当しました。また、後輩教育にも注力し、新任教師や教育実習生の指導にもあたりました。

職務経歴

|  |
| --- |
| 20xx年xx月～現在　　中学校教諭 |
| 事業内容：公立中学校生徒数：xxx人　 | 正規職員として勤務 |
| 20xx年xx月～現在　　　 　〇〇〇〇〇市立〇〇〇〇〇中学校20xx年xx月～20xx年xx月　〇〇〇〇〇市立〇〇〇〇〇中学校  |
| 【業務内容】・学級運営（担任6回経験）・教科指導（授業の計画・実施、テスト作成・採点、補習・追試対応など）・教科外活動（生徒会顧問、学校行事運営、生徒指導など）・進路指導・部活指導（サッカー部顧問）・教科主任（数学科、20xx年～20xx年）【学級運営での実績・取り組み】3年生の担任として生徒の進路相談を担当しました。ていねいにヒアリングした生徒の希望を第一に考え、三者面談ではさまざまな場面で保護者を説得。連携を進めるためにそれぞれの性格に合わせて柔軟に粘り強く対応し、結果として全員が希望の進路に挑戦することができました。【教科指導での実績・取り組み】生徒が主体的に学ぶことができるようICTを用いて、生徒の端末へ教材を配信し、授業中にクラスメイトの考えを簡単に共有できるような環境作りをしました。これまでの挙手をしての発表と異なり、全生徒が気軽に自分の意見を相手に伝えられるようになり、授業に活気が生まれました。【部活指導での実績・取り組み】サッカー部はそれまで、公式戦全敗のチームでしたが、論理的なトレーニング方法を自ら学び、生徒とともにミーティングを重ね、練習方法の試行錯誤していくことで地区大会４回戦進出。顧問主導の練習ではなく、生徒たちで話し合って決めた練習を続けたことで、高いモチベーションを保つことができたと考えています。また、高校生との合同練習や、元プロ選手を招きアドバイスをもらうなど、数多くの成長機会に恵まれたことと、生徒の努力により成し得た結果と考えています。【教科外活動での実績・取り組み】生徒会担当として、式典や行事、委員会活動の運営、さらには校則変更にも携わりました。特に、生徒から要望の多かった「ツーブロックに関する校則」については、生徒会で話し合い、生徒・保護者向けのアンケートを作成し、多くの賛同を得ました。また、教員向けには、職員会議で全職員の賛成が得られるまで、粘り強く交渉した結果、30年以上変わることのなかった、ツーブロック禁止の校則の撤廃に至りました。 |

活かせる経験・知識・技術

・ICTを用いるなどの工夫で生徒の積極的な授業参加を促す企画力

・変化しにくい教育現場において自分の考えを多くの人に伝えて納得させる発信力

・学校内外の授業実践におけるノウハウや事例を貪欲に学ぼうとする姿勢

・保護者や他校の教師、外部業者の間を調整、連携し、問題を解決する折衝力

PCスキル

|  |  |
| --- | --- |
| Word | 生徒配布用の資料作成が可能なレベル |
| Excel | 関数を組み合わせての数式作成が可能なレベル |
| PowerPoint | レイアウト図の作成、新規資料作成が可能なレベル |

資格

|  |  |
| --- | --- |
| 普通自動車第一種運転免許 | 20xx年xx月取得 |
| 中学校教諭一種免許状(数学) | 20xx年xx月取得 |
| 高等学校教諭一種免許状(数学) | 20xx年xx月取得 |

自己PR

**＜不登校になった生徒への粘り強い働きかけによる信頼の獲得＞**

３年生を担任した際、前年度から不登校だった生徒の担任になりました。不登校の状況を把握するために、まずは保護者と面談を密に行いました。不登校の原因が過去教師に暴言を吐かれたことへの不信感だったことを知り、そのイメージを払拭するために、毎週2回、30分程度の家庭訪問を粘り強く続けました。また、登校再開に向けてクラスの生徒たちにも、声を掛け戻りやすい雰囲気づくりを目指しました。その結果、２学期の終盤から少しずつ登校できるようになり、3学期は1度も欠席することなく卒業を迎えることができました。相手に対し真摯に向き合い続け信頼を得ることは、今後ビジネスの場においても、同僚との信頼関係の構築や、先方との円滑なやりとりに必要な能力であると考えます。

**＜自ら率先して行動しオンライン授業の導入を牽引＞**

教科の代表としてオンライン授業の研究を率先して行いました。タブレットなどの予算管理から業者手配までを通常業務の間にこなして無事に授業開始までに準備することができました。オンラインならではのメリットを活かしながら、対面と同じ学習内容の授業を実施しました。学期末の授業アンケートでは通常の授業よりも良い評価（非常に良い、まあまあ良い）の解答率が30％増加しました。結果、学校全体でオンラインを導入することとなり、学校としてのオンライン授業の向上に寄与しました。課題に対し、まずは自らが率先して行動する力は、新たな課題が生まれた際のスピーディーな問題解決に繋がるものと考えております。

以上